

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2372102216
法人名	南部薬品株式会社
事業所名	グループホーム リズム
訪問調査日	平成19年10月23日
評価確定日	平成19年12月3日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2372102216
法人名	南部薬品株式会社
事業所名	グループホーム リズム
所在地	岡崎市若松町字西之切50 (電話) 0564-58-3530

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年10月23日	評価確定日	平成19年12月3日

## 【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	6人, 非常勤 9人, 常勤換算 3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 300,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成19年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1	5名	要介護2	4名			
要介護3	9名	要介護4	0名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	83.38 歳	最低	74 歳	最高	92 歳
	協力医療機関名 幸田中央クリニック・岡崎南病院・あおばクリニック・丹羽歯科医院					

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

4つの事業所が集まった複合施設の中にグループホームはあり、広い中庭や施設の周りには緑や小学校が隣接していることから、鳥や子ども達のにぎやかな声が日常的に聞こえてくる。複合施設のメリットを活かし、他事業所の利用者との交流や多種多様なイベントやカルチャー教室への参加、大浴場や足湯などを入居者は利用している。また、さまざまな委員会が設けられており、各事業所から職員が参加し勉強会や情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。職員は“入居者がどうしたいのか”を念頭に置き、その人らしく過ごしてもらえよう本人に合わせたケアの提供を心がけている。入居者のことを理解し把握することで、共に楽しみ、笑い、悲しむことを共感し張り合いや喜びのある生活を目指している。家族との関係も大切にしており家族会の充実への促進や、さらに地域との連携を深められるよう期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の課題として居室の手すりの設置や理念の掲示、緊急時のマニュアル作成、ホーム便りの作成など会議で話し合いほとんどの課題が改善されている。改善点だけを見直すのではなく、できている項目についても見直しを行った。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について、職員から実施することで見直しができたとの声もあがり、生活の質の向上につながると前向きに取り組んでいる。また、ユニット合同の会議で、自己評価についての意見交換を予定している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	メンバーは、市職員、地域包括支援センター職員、総代、民生委員、家族代表、ホーム職員で構成されているが、婦人会や駐在所の方にも参加を呼びかけていきたいと考えている。会議で話し合う目的をしっかり掲げ、地域と連携しながらサービスの質の確保や向上に取り組んでいる。地域の方からは、活発に意見や質問があがりアドバイスや助言などもいただいている。今回の評価結果についても会議で報告する予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会は年2回予定されている。今年の3月に第1回目が開催され、施設からの報告や運営方針について説明を行い、希望者のみ個人面談を実施した。家族の来訪時には職員から声をかけ、不満や苦情、意見などを聞き出すよう心がけている。家族会を通して、家族同士のつながりも大切にしていきたいと考えている。家族アンケートの結果を職員に回覧し、会議で職員と話し合い対策を考え、結果については家族会で報告する予定である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、町内の行事にはできるだけ参加したいと心がけている。地域に、施設の夏祭りへの参加をポスターと回覧板を活用し案内をだし、今年は昨年より多くの近隣の人が参加してくれた。町内清掃には参加していないが、自主的に月1回入居者と職員で、小学生の通学路の掃除をしている。毎年、小、中学生の職場体験も受け入れている。敬老会には、総代が招待状を届けてくれるなど温かい関係ができています。町内の祭りでは子ども御輿や獅子舞が訪問し、入居者は楽しめました。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p style="text-align: center;"><b>・理念に基づく運営</b></p> <p style="text-align: center;"><b>1. 理念と共有</b></p>					
1	1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念は「その人らしく生の最も美しい時期をリズム、メロディーに満ち溢れ、人間関係をアンサンブルのように調和のとれた生活をして頂きたい」としている。グループホームが地域密着型サービスに位置づけられ、今後勉強会を重ねながら理解に努め、職員一人ひとりの意識を高め、共通認識ができるようになってから理念の見直しについて検討していきたいと考えている。</p>		<p>法人の理念やグループホーム独自の理念があり、法人全体の朝礼やグループホームのミーティングなどで理念の意識づけがされている。地域密着型サービスの役割を職員一人ひとりが理解し、共通認識ができるよう実現に向けた取り組みに期待したい。</p>
2	2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>施設全体の朝礼で代表から経営理念が伝えられ、月1回唱和している。日々のケアで困ったり、悩んだりした時にはグループホームの理念（原点）に戻り、入居者の立場に立って考えるよう管理者は話しており、各ユニットや合同会議の時に伝えるようにしている。玄関入り口に、法人理念やグループホームの理念が掲示されている。</p>		
<p style="text-align: center;"><b>2. 地域との支えあい</b></p>					
3	5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会に加入しており、町内の行事にはできるだけ参加したいと心がけている。地域に、施設の夏祭りへの参加をポスターと回覧板を活用し案内をだし、今年は昨年より多くの近隣の人が参加してくれた。町内清掃には参加していないが、自主的に月1回入居者と職員で、小学生の通学路の掃除をしている。毎年、小、中学生の職場体験も受け入れている。敬老会には、総代が招待状を届けてくれるなど温かい関係ができています。町内の祭りではこども御輿や獅子舞が訪問し、入居者は楽しまれた。</p>		<p>散歩や外出時には地域住民との挨拶を大切に、声をかけてもらったり、お裾分けをいただくなど馴染みの関係ができています。法人的行事に地域の人の参加があるなど積極的に交流が図られている。今後はさらに、地域の活動にも共に参加、協力していけるよう取り組みに期待したい。</p>
<p style="text-align: center;"><b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b></p>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回評価の課題として居室の手すりの設置や理念の掲示、緊急時のマニュアル作成など、会議で話し合いほとんどの課題が改善されている。改善点だけを見直すのではなく、できている項目についても見直しを行った。自己評価について、職員から実施することで見直しができたとという声もあがり、生活の質の向上につながると前向きに取り組んでいる。また、ユニット合同の会議で、自己評価についての意見交換を予定している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>メンバーは、市職員、地域包括支援センター職員、総代、民生委員、家族代表、ホーム職員で構成されているが、婦人会や駐在所の方にも参加を呼びかけていきたいと考えている。会議で話し合う目的をしっかりと掲げ、地域と連携しながらサービスの質の確保や向上に取り組んでいる。地域の方からは、活発に意見や質問があがりアドバイスや助言などもいただいている。今回の評価結果についても会議で報告する予定である。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険の申請時には窓口に届けるようにしている。市の相談員が月1回、ホームを訪問し入居者や職員の話をしている。4つの施設が複合していることから、地域包括支援センターの職員もよく訪問しており、その時に職員が意見交換している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>見守りカメラが7月から各居室と居間に取り付けられるようになった。家族には説明し同意書をもっており、同意されていない方の部屋にはカメラは有るが、電源を切っている。夜勤者の目が届かない時間のみ作動させており、見守りカメラによって、不穏の原因が分かり薬の服用を止め、笑顔がもどった事例もある。入居者の様子や連絡事項を記載した「グループホームリズムの便り」は、各個人の請求書を送る時に同封している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会は年2回予定されている。今年の3月に第1回目が開催され、施設からの報告や運営方針について説明を行い、希望者のみ個人面談を実施した。家族の来訪時には職員から声をかけ、不満や苦情、意見などを聞き出すよう心がけている。家族会を通して、家族同士のつながりも大切にしていきたいと考えている。家族アンケートの結果を職員に回覧し、会議で職員と話し合い対策を考え、結果については家族会で報告する予定である。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者には異動があった時に説明をしている。家族には来訪時に報告している。法人の異動は定期的ではないが職員の希望を聞いて考慮している。複合施設になっているので、法人内の異動があった時でも職員と施設内で会うことができ、入居者に与える不安も少ない。職員の離職が多い時期もあったが現在は安定している。今後は家族に対して不安を与えないよう、来訪時だけでなく便りに載せていく予定である。職員もグループホームの目的や役割について理解するよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会としては看護師が講師となり行われる研修が多く計画されている。毎月の法人内の研修は、教育訓練計画表に組まれており、高齢者の心理やコミュニケーション、食事介助についてなど勉強している。研修日程を複数設定し、受講しやすいよう配慮している。また、時間帯も午後の3～4時の1時間くらい実施し、パート職員も参加している。人事評価制度も実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に1度、岡崎市内のグループホーム小部会にて勉強会や意見交換をしており、管理者がリーダーが参加している。事業所同士の交流は行われていないが、今後、小部会だけでなく見学し合う計画があるが、まだ実施はされていない。施設内研修にも力を入れていきたいと前向きである。複合施設であり、委員会が設けられており各部署から職員が参加している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には、体験入居を勧めているが、実際には早く入居を望む家族が多く、家族の状況も考慮しながら本人に少しでも雰囲気馴染んでもらえるよう、随時見学してもらっている。面談する時は本人と家族とは別々に面接し、その後一緒に面談している。グループホームの様子を入居前に見てもらい、ホームの役割を家族に理解してもらえるよう努力している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	好きだった事を、本人や家族から聞き取り、生活に組み入れるようにしており、職員からの声かけで、入居者の活動意欲も高まっている。昼食にランチョンマットを利用することにより入居者と職員や入居者同士が共に協力して行うことが多くなった。言葉かけに注意しながらの楽しい一時である。畑の草むしり、野菜の収穫を共にしている。朝と夕方の食事の準備の際には、料理方法を教えてもらったり、生活の知恵を入居者から学んでいる。介助中に入居者から労いの言葉をかけてもらったり、職員が忙しくしていると手伝ってくれるなど、共に助け合い支えあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意思表示のはっきりしている方もいれば難しい方もおり、本人や家族に協力してもらいながら、アセスメントを現在とりなしている。1年に1回は、入居者の何か一つでも希望を叶えてあげたいと思う気持ちから入居者と話し合い、聞き出すことができ、お墓参りを実現することができた事例もある。入居者にも喜んでもらい、職員の意識づけもでき、一人ひとり意識しながら取り組むことへとつながっている。聞き取り困難な方は、家族に聞いて昔を知り、会話から導くようにしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居後は、面接票を参考に本人のできること、できないことを把握し仮の介護計画を作成している。その後、計画を実施しながら様子を見て、再度計画を見直し、家族に来訪時や電話などで説明し意向を聞き同意をもらっている。同意を確認してから計画を開始している。朝の申し送り職員に伝達している。カンファレンスでは、職員同士意見を出し合い、介護計画に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間は短期目標3カ月、長期目標6カ月としており、計画作成担当者が中心となり職員の意見を聞きながら、毎月、介護計画に対する達成状況とADL(日常生活動作)についてチェックしている。モニタリング様式は、毎月の状態が時系列でわかるようになっている。そして、3カ月毎に介護計画の見直しを実施している。状態に変化があった場合は、都度計画を見直し、家族には電話で連絡している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を受けており、入居者は協力医(内科、心療内科)の往診を定期的に行うことができる。看護師と24時間連絡とれる体制ができている。複合施設であるメリットを活かしてイベントや行事への参加やボランティアによるリラクゼーションをグループホームの入居者も週1回受けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診については入居時に家族に希望を聞いており、ホームの協力病院の他、入居前の本人のかかりつけ医に受診することが可能である。その場合の通院介助は家族にお願いしているが、家族が困難な場合は、施設全体で対応している。家族から受診後、報告してもらい日報に記録している。入院した場合は定期的に職員が訪問し関係者から状況を聞いて把握している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を受けており、24時間看護師との連絡、協力体制がある。重度化や終末期について家族の要望も多く、協力医療機関の協力もあり、医師から家族に話しをしていただいている。以前、職員が研修に参加したこともあるが、ホームとしての方針の確立や職員間で話し合う機会など体制がまだ整っていない。今後、研修や協議をしながら確立していきたいと考えている。		現在、対象者がいないこともあり、具体的な方針や取り決めなどは定まっておらず、今後、職員も交えて検討してしていきたいと考えている。早い段階から方針をたて、関係者と共有されることを期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、職員に説明しており、記録類は事務所で保管している。職員の中には、部屋の開閉時の声かけをしないや衛生面でする手袋をトイレの中ではなく、入る前にはめるなど、配慮に欠ける時もあるようだが、排泄支援の場での言葉遣いや馴れ合いすぎる話し方、声の大きさなどには十分に留意するよう伝えられている。見守りカメラが7月から各居室と居間に取り付けられるようになった。家族には説明し同意書をもっており、同意されていない方の部屋にはカメラは有るが、電源を切っている。		見守りカメラについては、使用目的や取り決めがきちんと決められており、家族にも説明し同意をいただいている。昼夜逆転の理由が分かったことにより対応方法をかえいい方向に結果がでた事例もあがっている。今後も継続的に職員間での使用目的や取り決めについて徹底し検討されることを期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで、時間に制限は設けていない。おおまかな1日の流れはあるものの、押し付けではなく、本人の希望や自己決定を尊重するよう努めている。時には、事務所に人に協力してもらうこともある。入浴については、本人の好きな時間に入ってもらえるよう配慮しているが、職員の都合により午前中に入浴することもある。ユニット毎に生活のリズムがあり、それぞれ特徴がでていいる。散歩や裁縫、畑仕事、イベントへの参加など日常を楽しく過ごしてもらえるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は、入居者と一緒に食事を摂っているが、食材費の関係で同じものではなく、各自で用意したものを食べている。昼は厨房で作っており、朝、夕はホーム内で作っている。入居者のできること、できないことを把握し、職員主体で行うのではなく声かけにより、調理から後片付けまで入居者も一緒にできることを行ってもらえるよう取り組んでいる。		職員と入居者が共に同じものを摂ることにより、味付けや温度、硬さなどを知ることができ、共感することができる。同じ食事を摂ることの大切さについても今後検討されることを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することは可能であるが、おおむね1日置きに入居者は入っている。入浴を楽しんでもらえるよう、お湯は一人ずつ入れかえている。併設施設の大浴場や足湯を利用することもでき、足湯は1日おきに利用している。家族も利用することが可能であり、利用できることを促していきたいと考えている。入浴の嫌いな方には、その人の性格を把握し声かけを工夫するなど促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎週イベントが開催され、フラダンスや民謡、押し花教室などに希望者が参加している。職員も一緒に参加することで共に楽しさを共有している。裁縫をする人も多く、畑仕事や散歩、計算や漢字ドリルなど、それぞれ好きなことを楽しんでいる。行事は、複合施設全体で行い、季節毎にバーベキューや流しソーめん、夏祭り、運動会など多種多様の催し物が開催されている。年1回遠出の企画をし外出している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しには、毎日行き入居者も一緒に出かけている。天気の良い日は散歩に出かけており、日課に取り入れている。道端で花を摘んで帰ってきたり、近所の方に声をかけてもらい野菜や花を頂くこともある。ホーム内では、中庭のベンチに座り外気浴を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はオートロックになっている。日中は開放し空気の入替えをすることもできる。中庭には自由に出ることができ、ベンチで寛ぐことができる。居室の窓枠には、ストッパーがかかっており、ある一定の間隔しか開かないようになっている。高台に施設が建っていることもあり、徘徊による転落などの危険防止のためにしている。家族が希望される場合もあり、今後の課題として考えている。		窓枠のストッパーについては、取り外しが可能である。入居者の安全が第1であり、家族が希望される場合もある現状であるが、「常態化」するのではなく、安全面に配慮しながらできる工夫についても継続して検討していかれることを期待したい。



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	複合施設全体で、年2回火事、地震を想定した避難訓練を実施している。消防署の協力も得て行っており、入居者も一緒に参加している。地域への協力依頼については運営推進会議でも話しが出ており、総代より地域の避難訓練への参加の助言もいただき、今後検討している。緊急時のマニュアルが整備されており、災害時における食料、水などの備蓄品は3日分用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームの菜園で収穫した野菜を献立に取り入れることもある。昼は、厨房で作っているため、カロリー計算がされている。朝、夕については、特別計算は行っていない。入居者の希望を聞きながら、偏りがないう工夫している。介護記録に食事、水分の摂取量を記入し把握している。水分を摂りやすいよう、リズム2ではお茶ポットを置き、自由に飲んでもらえるようにしている。		朝、夕の献立についても見直しを兼ね、専門職からアドバイスを受けることなど検討されることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは3階建ての1階にあり、4つの施設が併設されている。中庭は広く芝生が敷かれベンチが置かれている。玄関前には、菜園があり花や野菜が育てられている。周りの環境も緑が多く鳥の囀りが聞こえる。リズム2では、テーブルの配色を変えることで、入居者に落ち着きが見られるようになった。日付が認識できるように見やすく表示され、窓には季節感のある飾りつけをしている。壁には行事やイベントの時の写真が掲示され、入居者や職員が楽しんでいる様子がうかがえた。イベント予定表も掲示されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドが備え付けになっており、それ以外は自宅で使い慣れた家具や道具、趣味の品などを持ってきてもらっている。本人が分かりやすいように居室前には表札が写真や作品と一緒に飾られている人もいれば、表札が嫌な人もおり付けていない人もいる。部屋の掃除は各自で行い、フロアは入居者と職員と一緒に掃除している。手作りカレンダーが飾られており、自分で斜線を引いている人もいる。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。